



# NETWORK VOL.148

# TEARRA



東宝撮影所にて最後の撮影(平成24年9月15日)

## 「お帰りなさい 平和の翼」

平成22年3月から今年5月まで青森県三沢航空科学館に展示していた人間の翼零戦復元機。当初の予定を延長し展示している最中に発生した大震災。幸いに、科学館、復元機などに損傷はなく、その後も東北各地から多くの方々が足を運ばれ、本年5月5日は来場者が10万人を超えました。何より見て頂いた方から『…3.11以降、震災の事で心が折れそうになる気持ちの中、復元機を見ると「あの時代の方を思うと、命があるだけでもありがたい」との言葉を頂き、ほんの少しでもお役に立てたのではないかと感じています。そして展示終了間際に飛び込んできた「映画への出演」。『人間の翼』から17年。ふたたびスクリーンにその勇姿を表します。3カ月に及ぶ撮影が終わり、大きな役目を果たした平和の翼は9月末、佐賀に戻り、しばらく羽を休めます。あらためて、天国の武夫先生、復元担当の馬場憲治さん、そしてこれまで支えて下さった全ての皆様に心から感謝を申し上げます。(東宝映画「永遠のゼロ」、監督「ALWAYS三丁目の夕日」山崎貴監督、主演 岡田准一 2013年秋～冬 全国公開)

～人間の翼零戦復元委員会 事務局長 山下春美～

## CONTENTS ■ 2012秋

古賀武夫先生の言葉を辿る  
一所懸命 恩返し Vol.2  
『人を幸せにする権利』

大野 博之 2

### ■地球市民の会

和顔愛語	佐藤 昭二	3
カタランカ Cross Asia		4～5
新かちがらす		6～7
心のふるさと富士町へ2012 夏休みふるさとステイ!		8～9
ミャンマー通信		10
協力者一覧		11

### ■夢の学校をつくる会

夏の思い出		12
「夢の学校への思い」⑭		13
「私の考える教育とは？」⑭		13

### ■和道流古賀道場

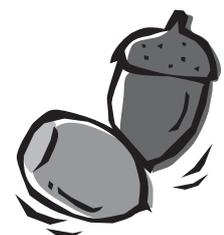
道場通信		14
------	--	----

### ■古賀英語道場

英語的思考のススメ Vol.10		15
------------------	--	----

### ■共同執筆

10～12月のお知らせ		16
-------------	--	----



# 一所懸命 恩返し Vol.2

## 『人を幸せにする権利』

大野 博之

今号も「古賀武夫ブックレット 第四号 『一所懸命 恩返し』」(平成七年一月〜平成十一年六月)から、古賀先生の一九九五年(平成七年)の後半の言葉を辿ります。

この年の後半は映画「人間の翼」の制作・そして上映に邁進します。借金が最大一億五千万円になり、血を吐くような協力のお願いもしています。そんな時期の文章ですが、努めて明るく語っています。公式な場でよく涙を流していた古賀先生は「感謝」が口癖のように出る年でした。

### 身体の元気、心の平和

『実は、人も社会も幸せになるのは簡単なことだ。「知足安分」、今の自分があるがままに受け入れ、すべてに感謝し、無い物ねだりをせず、それぞれに必要な物を必要な時に、必要な分だけ与えあうことだ。そのためには健康が一番。健康だと人にも親切にできる。』

……私の娘が小学校六年生の時、学校である女の子から毎日意地悪をされていたことがあります。娘は学校であった事を話しながらいつも嫌だと言っていました。その時、父親である私は娘に「おまえに意地悪する人の事を可哀そうだと思いなさい」と言いました。「えっ?可哀そうなのは意地悪されてる私でしょ」と、よく解らなそうにしていた娘に「幸せな人は人に意地悪をしないものなんだよ。戦争だって、裁判だって、けんかだって、一人占めする人や、やさしく出来ない人、みんな幸せじゃないんだよ。もし、幸せだったら、そんなことしないからね。だから、お前に意地悪する人はきつと幸せじゃないんだと父ちゃんは思う。そう思うとその子の事を可哀そうだと思えるでしょ。」

彼女はこの話をどう思ったかわかりませんが、それからしばらく彼女から意地悪の話を聞かされてはいませんでした。そんな彼女の卒業間際に学校からお詫びの電話がありました。彼女の靴や学用品が隠されたという事でした。家に帰って来た娘に「辛かったろう?」というのと、「父ちゃん、隠した子にも隠しなかった事情があったんだよ、私は気にしてないから大丈夫。」と答えました。きつと彼女がそう答えたのは嫌な思いはしたけど、それで不幸を感じたわけではなかったことだと思えます。

古賀先生は健康だと人に親切にできるとおっしゃっていますが、幸せだと人に親切にできる、とも言えるのではないのでしょうか。

### 古賀武夫が映画「人間の翼」にのめりこんだ理由

『今もなお、世界のあちこちで紛争、戦争は絶え間ない。いや、それ以外にも、人類の存亡の為に急を要する地球的課題が山積している。「人間の翼」は五十年前の日本の話ではなく、今日の、そして明日のテーマなのである。私は、石丸進一という一人の青年の生死を通して、戦争と平和、生きること、家族、地域、民族、祖国、世界、人間を問い直したいと思っている。』

……古賀先生が映画「人間の翼」にここまで関わることになったのは、縁によるものであり、逃れられない立場に置かれたところもあるでしょうが、自ら望んでいたというところが最大の理由でした。二億円近い資金のうち一億五千万円を借金してでもやったのは、完済出来るであろう確信とともに、せねばならないという使命感でした。国際協力を共にする方々、地球市民の会の仲間の中にさえ、「古賀さんの映画は地球市民の会の国際協力事業とは関係ない個人的な活動だ」という人もいました。おそらく外からはそう見えたのでしょう。しかし、古賀先生にとっては国際協力も、国際交流も、地域づくりもそして映画もすべては一つの点に帰結する活動の一つだったのです。それは「人間の持つべき文明」つまり、地球の癒し方でした。手段、表現方法はそれぞれ別々のものでも、目指すビジョンは同じだったという事でした。地球市民運動というわかりにくい運動をわかりやすく伝えたかった、それが映画「人間の翼」だったのでしょう。

### 人を幸せにする権利

『あたり前』、それは、取る喜びから、与える喜びへと変わっていく事である。生かされている喜びを身体中に受け入れ、感謝し、人間に与えられた唯一絶対の権利である「人を幸せにする権利」を思う存分行使することに他ならない。』

……現在、地球市民の会の活動理念を伝えるのに、勝ち組・負け組という「奪い合う経済」収奪型資本主義から共助という

「与えあう経済」循環型資本主義へと時代のパラダイムを変化させることで、自分以外の人の幸せ自分の幸せだと感じられる人になろう、そのような人材を育てよう、という言い方をしています。これはまさに「人を幸せにする権利」そのものです。十七年前に古賀先生が語った理念は古賀先生が亡くなった今も地球市民の中にそのまま残っています。

当時古賀先生は「地球市民の会ではなく地球家族の会にしなければならぬ」ともおっしゃっていました。これは自分以外の人の幸せ自分の幸せだと感じられる関係が一番簡潔に表れるのが家族間においてだから、地球上のすべての生き物が家族になるべきだという意味だったのでしょう。

### うさぎはなぜ亀に敗れたか

『うさぎの敗因と亀の敗因だが、それは、うさぎの目標が亀に勝つ事だったのに対し、亀が目指したのは、常に向こうの山に到達することだった。我々はすべからず、どこに向かつて歩むかを考えるべきである。』

……古賀先生はこのエピソードに以下のようにつけ加えられました。「うさぎは亀が相手だったから昼寝をしてしまったのだ。結果的にうさぎが寝たのが亀の勝因だが、亀はうさぎとの勝負の最重要点を山に到達することと考えていた。うさぎも大きな志を持っていったら亀に負けることもなかった。また、それぐらい志が大きければ、もはや勝負の勝ち負けは関係なくなるものである。うさぎと亀のお話は「ゴツゴツと真面目にやれば最後は勝てる」という教訓だと思われていますが、それだけではなく、大きな目標、大きな志を持つことの大切さを学べるのだとおっしゃっていたのでしよう。

古賀先生の長男の慈猛くん、当時小学生、はこの話を聞いた後「お父さん、亀は全然やさしくないよ。もしうさぎが寝ていたら起こしてあげなきゃ。寝ているすきこつそり行って勝つてしまう方が、心が狭いよ」と感想を言いました。一瞬間固まったあと、古賀先生は爆笑し、「亀はうさぎに気が付かなかつたかもよ」といいました。(以下続く)

# 和顔愛語



佐藤 昭二

## ご先祖

この世の中で、一番見えないもの、そして解らないもの、それは自分に一番近いものであろう。まずは目に一番近いもの、それは自分のまつ毛である。そして一番解らないもの、それは自分の心だ。

あまりにも自分に近すぎるから見えなくて、そして解らないもの。これらのものは一人で暮らしている時は別段気にする事もなく、何事も無いかの如く日常は流れて行く。しかし私たちはこれらのものを日常生活では不思議と無意識に確認しようとするのだ。そしてそれは、多くの場合、他によって教えてもらうことが多い。

たとえば、女性は外出する時、自分の顔、まつ毛の状態をとでも気にする。その為、毎朝相对（あいたい）する鏡に見えない自分を教えて貰っている。また、解決せず解らない自分の心の問題は、何時ともなしに「周りの人たちに自分はどう思われているか」が気になることで、その問題が浮かび上がってくる。これは、周りの人達に「わからない自分の心」の状態を教えて頂いているということになるのである。

ことほど左様に、私たちは「見えない、解らない」ものに無意識に意識し、問題解決をしようとしているが、しかし複雑多岐なこの社会生活において「見えない、解らない」は無意識のままにしていると必ず大きな問題になってくる。周りの人たちが気になると云う事は、自分の心が解らないと云うことだといえるのだが、自分の心が解らないと、悩みや苦しみ、怒りや嫉妬、場合によっては犯罪として、自分自身をなおも苛むことになってしまう。

自分の心が分らない理由のひとつに、「お前は誰だ」という最も根本的な問いかけに答えられないことが有るが、自分の根本が解らないということは、自分の心に繋がっているご先祖の存在意識が希薄になって居るからである。ここでいう「ご先祖様」というのは連綿とつながるいのちと霊性のことを言う。

ご先祖様とのつながりを失うというのは、例えて言うなら砂漠の砂嵐で、西も東も分らなくなっ

てしまい進むべき方向を見失った時のようなものである。そのような時、微かながらも自分の歩んできた足跡が分れば、自分の進む方向はその足跡の延長である事は自明であろう。そう、その足跡こそ今日の自分を送り出してくれたご先祖＝連綿とつながるいのちと霊性なのである。ご先祖を明確にすることこそ、私達の自分の心を明確にし、人生の進むべき道を見出すことができるようになるのだ。

ここで、誤解を解きたいと思うのだが、私はこれまで「ご先祖のご供養」のことを何度も申し上げて来た。これは、どうしても一般的に、先祖供養と言うと何かの宗教と勘違いし、又それをいかがわしいとか、非科学的だとか、恥だと思っている方も多分に居る。しかし、私の言う「ご先祖のご供養」とは、自分の心を明らかにする、もしくは自分の本当の心に立ち返るための最も近道の方法(メソッド)なのである。これを宗教儀礼だとお考えになられる様な方は何も信仰していないか、信仰はたいてい身勝手な困ったときの神頼みの「拝み信仰」という方であり、宗教観を持ち合わせない、もしくは小さな狭い宗教観の持ち主であることが多い。非常に残念な思いがする。

真の先祖の供養とは自分の心を明らかにする最も近道である。したがって先祖のご供養は自分を供養して居る事になるのである。私達は今こそ「先祖と吾は一体」である事を知るべきである。これは、仏教で云うところの「色即是空」や「自利利他」そして、「自他一体」という教えと同じことである。心の豊かさとは、この一体感から生まれてくるものと私は確信している、そこには物質や金銭ではとうてい計る事の出来ない喜びが有るからだ。

あらゆる悩み、苦しみ、犯罪等は全て自分自身を見失った、つまり、先祖との絆が切れた事から始まっている。今年ほど「絆」と言う字や、言葉が飛び交った年は無い。この絆を何処と結ぶのが、私たちには真剣にそれを考える時が来た様である。

合掌



# カタランカ Cross Asia

～スリランカ高校生

招へいプログラム～



## ストゥーティー!! あいがとう!!

8月、真夏の佐賀。スリランカ・シショダヤ奨学生の高校生たち5名と引率の先生が来日。「みんなカタランね(仲間になりませんか)～、カタロウ(語ろう)や～」を合言葉に、アジアの友好の輪を広げていきたい!!と佐賀で国際交流プログラムが行われました。多くの方々に参加して頂き、温かいご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

日程：2012年8月2日(金)～10日(金)までの8日間

協力：佐賀大学留学生、チャリさがさいせい、NHK佐賀放送局、佐賀県立佐賀北高等学校、井内お能舞台、七賢人の里おへそ保育園、寄ん処、伊万里川内野集落の皆さま、古賀空手道場、古賀英語道場、夢の学校をつくる会、ホストファミリーの皆さま、地球市民の会会員の皆さま、カタランカ実行委員会、佐賀県、佐賀県国際交流協会、佐賀市、佐賀市国際交流協会、佐賀市民の皆さま

## 8日間の思い出ほろほろ

### 8月2日 いらっしやい

●福岡空港到着★約19時間かけて「光輝く島」スリランカから到着。飛行機が1時間早く到着し…迎えが間にあわず心配かけました。。長かったフライトにもかかわらず子ども達の心はわくわく☆

### 8月3日 わくわくのスタート

●佐賀秀島市長表敬訪問。

全校生徒6000人のサンガミッタ女子校の代表として来日した高校生たち。

今回の訪問を支えてくれた佐賀市千カラット事業によるサポートに感謝の言葉をのべました。

●佐賀大学留学生との出会い

佐大スリランカ留学との交流。研究室の見学や日本での生活話を聞き、将来への希望を広く持つ機会に。日本食なじめない高校生たちに、留学生達がアイスクリームを買ってあげる場面に心が温まりました(^-^)

●NHK佐賀放送局&佐賀城本丸歴史館

●ウェルカムパーティー

佐賀んもんの笑顔と美味しい料理で歓迎。ホストファミリーや里親さんと対面。ジェスチャーゲームで大盛り上がり。言葉の壁を越えて、心と心が繋がりました☆



### 8月4日 佐賀のいいところみーつけた

●武雄に電車に乗ってGO!!宇宙科学館と武雄三代大楠を見学。初めて自販機での切符購入や自動改札にきゃーきゃー喜びながら挑戦。武雄の地元高校生の参加もあり、改めてわが町を振り返る機会に。

### 8月5日 家族が生まれる

●8月3日～6日までの4日間。佐賀県内の家庭で、滞在し普段着の交流を図った。どの家庭も、外国からのお客さまとしてではなく、家族の一員として迎え入れてくれた。言葉でのコミュニケーションが思いとおりにいかない部分はあったようだがお互いに、一生懸命伝えようと、心でのコミュニケーションを図った。

今回のプログラムを通して、「人」と「人」が繋がり、多くの笑顔や喜び、感動が生まれたと感じています。このような繰り返しで、「平和の輪」は広がっていくと実感しました。

2年後、スリランカの高校生たちをまた佐賀に呼び出すことができるように、スリランカのニシャンタ氏と話を進めていきたいと思っています。また、今回、広がった佐賀での輪を大切に、楽しく集える場をつくっていきたくて考えています。

これからも「カタランね～、カタロウや～」を合言葉に、活動に取り組んでいきたいと思っています。出会いに感謝。

※現在、2013年シショダヤ奨学金里親募集中です。ご興味のある方は、事務局までご連絡下さい。スリランカ担当 戸田玲子

### 8月6日 日本の文化たっぷり体験

●佐賀北高校日本文化体験プログラム

佐賀北校の書道部と生徒会の協力をいただき、書道体験。「夢」「友」などの字を思いっきりと描くスリランカの高校生の姿に、感激の声。芸術を通して、アジアの若者の輪が広がった。

●お能体験、おへそ保育園訪問&打ち水

●浴衣を着てお出かけ

会員さんのご協力で、浴衣を綺麗に着せていただきました。とっても浴衣が似合い、大和美人に♡町を歩いていると、みんなが振り返っていました。



### 8月7日～8日 田舎くらしまつたり

●伊万里の農家民泊。自然の恵を受けながら、地域の子どもから大人まで多くの方々と、そうめん流し、野菜収穫、黒米料理づくり、農家ホームステイ、交流の夕べで文化交流を体験。



### 8月8日 アジアの若者の語り合い

●英語でワークショップ

「アジアの友好を築くために、私たちに求められていること」をテーマに、日本の大学生と熱い意見交換。意見交換し相互理解を深めることの大切さを学んだ。そのようにして「友好」が深まっていくのだと感じた」と参加者たち。



### 8月9日 すっかり友達、すっかり仲間

●スリランカフェスティバル

スリランカカレーと日本のお菓子落雁づくり。色とりどりのスパイスに日本の皆さんは興味津々。落雁づくりは、日本人にとっても初めての体験。お茶文化交流や民族舞踊の披露もあり、お互いの文化を楽しくする時間となった。

●さよならパーティー

最後の楽しいひと時を一緒に過ごしたいと、日本人が大集合☆思い出を語り、またお会おうと約束を交わした。スリランカの高校生が、日本語で歌を披露…涙涙でした♪



## カタってカタったプログラム…どうでしたか?

地域を大切に思い、協力しあう日本人の姿に感激した。

(スリランカの高校生より)

「書道」という自分達の特技で外国の方と交流できたことは、生徒たちにとって大きな自身になったと感じている (佐賀北高校教師)

外国の方の受入は始めてで戸惑いがあったが、ににこにこ滞在中、とても元気が出た。(伊万里川内野 幸松さん)

スリランカの高校生との出会いは勿論だが、佐賀の方々との新しい出会いがたくさんあり、本当に嬉しかった。今後に繋げていきたい。

(実行委員会)

帰国後、日本での体験や学びを他の学生たちとも共有し、将来の夢の実現に向けて頑張っていきたい (スリランカ高校生)

## スリランカからアユボワーン



長年、現地で奨学金の調整などに取組んできたイレイシャさんが子育てに専念するために退職。新しく、ナタシャさんという女性が着任されています。「里親

さんとスリランカの間での友好関係が作っていく、そんな仕事ができて嬉しい」と話してくれました。よろしくお願い致します。

# 新かちがらす

## ～日韓青年交流～は今年も大成功でした!!

### 参加メンバーの感想

<西九州大学健康福祉学部 梶野 里菜>

国際交流をすることが目的でこのプロジェクトに参加しましたが、私は韓国語が全く話せず、韓国人の学生と仲良くなれるのか不安でした。しかし今回参加していた学生はみんな日本語が上手で、すぐに仲良くなることができました。韓国人の学生は日本のことを知ろうと、いつも一所懸命!とても勉強熱心な姿に感動しました。



地域の方々には気さくで暖かく、私たちが快く迎えてくれました。人間関係、近所付き合いが希薄になっていると言われていた現在でも、地域で支え合いながら生活されている所や、私たちが富士町の良いところを尋ねると、たくさん答えが返ってくる所に感激しました。私も自分の地元を誇りを持ち、大切にしなければならぬと思いました。

7泊8日という短い時間だったけれど、色んな体験をし、たくさん学び、成長することが出来たと感じています。みんなと過ごした1日1日がとても濃く、夏休み最高の思い出を作ることができました。参加させていただきありがとうございました。

<西九州大学健康福祉学部 柳田 菜摘>

私は、国際交流がしたいという理由でこの新かちがらすに参加しました。韓国の学生や日本の学生達と大自然の中で活動してみて、文化や言葉も違ったけどこれからもずっと交流していきたい仲間になりました。また、富士町の子も達や地域の方々とも交流でき、人の暖かさにもふれることができました。レクリエーションもさせていただき、貴重な経験をさせてもらいました。普段何気なく過ごしている日々の中では感じる事ができない、人との繋がりや大自然の豊かさがこんなに素晴らしいものだと実感できました。

またいつかここに戻ってきたいと思いました!



<韓国人大学生 キムソンギョン>

今年は韓国人学生の参加数が少なく、また、日本人学生は全て女性だと聞いて心配もしましたが、女性だけの安心感や活動もやりやすいところもありました。

一番記憶に残るプログラムは、北山少年自然の家での宿泊と古湯の夏祭りです。自然の家で小学生たちと一緒にカレーを作り、夕方にはレクリエーションを楽しみました。夏祭り祭りでは日本の伝統的なお祭りに参加でき、おいしい食べ物やビンゴゲーム、花火大会にも参加できて楽しかったです。佐賀市富士町のきれいな自然の中でいい人々と共に活動ができて、忘れられない記憶になりました。特に夜空に輝く多くの星と、雨降り後の空に浮かぶ虹は本当に感動の光景でした。みんなで公民館で一緒に過ごしたことでいい友人ができました。久しぶりに自然で、川遊びや魚釣りができ、元気な子どもたちや地元の人たちと一緒にたくさん話げできたことも楽しい時間でした。



今年で3年目となった、日韓青年交流事業「新かちがらす」。地域の皆さまのご協力のおかげで、今年も大いに感動ある活動ができました!

地域の方との話し合いの中で、地域を知るにはまず学校を知ることが必要との提案をいただき、今回は、地域にとって大きな存在である「学校」をテーマに活動を行いました。

参加者である日韓の大学生は学校を通して、地域の現状や問題を学びました。

実施期間 2012年8月19日(日)～26日(日)

参加者 日本の大学生10名 韓国の大学生4名

### ～8日間の思い出～

8月19日(日) ワークショップ

8月20日(月) 小学校で交流、まち歩き、地元の方々との懇親会

8月21日(火) 小学校で交流、東北震災ワークショップ

8月22日(水) 農業体験

8月23日(木) 北山少年自然の家で自然体験活動

8月24日(金) 地元保育園生との交流、さよならパーティー

8月25日(土) 古湯の夏祭り祭りに参加

8月26日(日) 観光



### 今回のプログラムを振り返って

今年度は、韓国からの参加者が少人数ではありましたが、日本と韓国の大学生は、互いに濃い交流と深い学びを得ました。過疎がすすみ、学校の存続についても危機感が生じてきたこの地域。



今回、「学校」をテーマに地域について勉強する中で、参加者が学んだことはまず、地域における学校の大切さです。地域に学校があることで、集える場所が生まれ、笑顔も生まれるということを感じた参加者。さらに地域の方との交流の中で、地域全体で子どもたちを見守り育てることの大切さも学びました。

この「新かちがらす」には地域の方もたくさん参加していただき、交流の輪が広がりました。また地域の方の中には、「国際交流は子どもにとって教育面でも有意義なもの」と、今後の「新かちがらす」に期待を寄せる方もいらっしゃいました。

当初は、国際交流を目的に集まった参加者でしたが、地域の方との交流を通して、地域を好きになる参加者もいました。さらに、他の地域について知ること、自分が生まれ育った地域にも興味をもち、もう一度見つめなおしたいという参加者もいました。

# 心のふるさと富士町へ 2012 夏休みふるさとステイ! ~夏休みの思い出みつけた~

この夏、初めて小学生を対象にした夏のふるさとステイを行いました。  
山間地活性化の話し合いで、富士町の方々と話を進めていく中で、もっとたくさんの方に富士町に遊びに来てもらいたいという要望がありました。地域の方々とも何度か話し合いを重ね、今回キャンプをやりましょう!ということになり、地元の方との協働でキャンプ事業を行いました。場所は、富士町の北山湖の近くの富士町関屋地区。  
地域活性化を目的に、子どもたちは自然の中で思い切り遊び、地域の方々とのふれあいを通して地域を越えた心の交流を目指して行いました。地域より多くの野菜をいただいたり、地元の方々の人的お手伝いなどのご協力をいただきました。



今回、小学生の参加者を佐賀県内を中心に、遠くは福岡県大川市や早良区からの総勢78名の申し込みがありました。  
期間は、7月下旬から8月中旬までの間、2泊3日のコースを3本、1泊2日のコースを1本行いました。この計4本のコースでは、それぞれ異なる企画を計画し、コース毎の特色を出しました。どのコースでも事業実施地である関屋集落ならではの資源を生かした自然体験活動プログラムを実施しました。  
また、キャンプのお手伝いで高校生や大学生も来てくれました。



## 参加した小学生の数

- ◆①コース：小学1年～3年 19名
- ◆②コース：小学1年～6年 12名
- ◆③コース：小学1年～6年 26名
- ◆④コース：小学1年～6年 21名



## 活動した内容

- \*魚釣り
- \*虫とり
- \*暗闇探検
- \*川遊び
- \*そばの芽キットづくり
- \*夕食づくり
- \*川登り
- \*ひのきの箸づくり
- \*古湯温泉入浴
- \*星空観察
- \*県民の森でのクラフト作り
- \*そばの芽収穫と栽培
- \*カブトムシ相撲大会見学
- \*竹の水てっぽう作り
- \*夏休みの宿題の勉強会



## 皆さんの声

### <参加した子ども達の声>

「星ってこんなにあるんだね!」「ご飯もっと食べる!」「山のお水は美味しいね」「一年生の面倒は私がみる」「いつもは嫌いな梅干だけど美味しかった!」「もっと長く泊まりたい」「来年も絶対参加する!」「新しい友達出来たよ!」「また富士町に遊びに来るね!」

### <サポーターの声>

「久しぶりに子どもたちと関わることができ、自身の将来の進路の参考になった」「自分たちも自然の楽しさ・豊かさを子どもたちと一緒に体感でき、良い経験になった」...

### <関屋地区の方々の声>

「子どもたちの声がにぎやかで良かった」「久しぶりに地域がにぎわった」「子どもたちが来とるから、ちょっとびっくりさせたくて射止めたイノシシを見せに来たよ」...

## 最後振り返って

このふるさとステイ期間中に、子ども達には大きな変化を見ることができました。例えば普段、好き嫌いをしている野菜や漬物を初日以降は、周りの子ども達と競争して残さず食べる子ども達が多くいました。また初日は苦手だった食器洗いも、最終日には低学年も上手に洗えるようになっていました。集団生活において、子どもたちも、今まで出来なかったことが出来るようになる達成感を非常に感じているようでした。さらに様々な自然体験活動においても、初めて川遊びや魚釣りをした子どもたちもいました。自然の豊かさ・大切さを五感で体感した夏でした。またたくさんの活動において全員で取り組むチームワークも学びました。

協力してもらった関屋集落は過疎高齢化が進む地域です。久しぶりに子どもたちの歓声が響いたということで、住民の方々に大変喜んでいただきました。都市農村交流には、地域の元気づくりには大きな影響を与え、地域活性化を推進していく上で大きな意義があると思われました。

最後に、今回ご協力いただいた皆さまありがとうございました!!



# 協力者一覧

※2012年7月～2012年9月まで

## 正会員

青柳 達也  
麻生 靖史  
岩永 清邦  
江口 恵美  
大串 博志  
河野 一郎  
北原 壽豊  
北村 直樹  
TPAぎふ  
平井 八重子  
木村 方子  
古賀 友大  
古賀 愛基  
古賀 慈猛  
古賀 洋子  
小山 恭子  
近藤 秀二  
里中 長治  
白倉 和子  
田島 広一  
堤 加奈子  
徳光 清孝  
戸田 玲子  
豊川 悦郎  
永富 丈  
中村 俊範  
中村 元  
中村電機製作所  
中本 正一  
西山 峰次  
新田 一雄  
野口 翔平  
野口 尚子  
八谷 まち子  
福岡 資麿  
福島 龍一  
藤崎 博喜  
藤瀬 伸恵  
藤戸 博  
古川 ことと  
牧瀬 弓子  
増田 誠司  
松田 孝  
宮嶋 寛治  
宮嶋 美子  
本村 満江  
諸井 政司  
吉本 正光  
阿部 剛  
阿部 功  
芦刈 由美子  
安心院 晶子  
井上 議  
井上 美由紀  
井上 信宏  
井本 勇  
稲垣 千佳子  
稲富 正人  
横尾 孝幸

加藤 次男  
丸山 文章  
菊野 善久  
吉次 孝  
吉田 英雄  
境野 正武  
栗田 明  
原 康彦  
原 利幸  
原口 一博  
古賀 康宣  
古賀 和夫  
古川 昌宏  
古川 康  
今村 雅弘  
佐久間 博  
坂井 学  
薩摩 和男  
山下 雄司  
山口 スミ子  
山崎 みね子  
秋葉 幸伸  
春木 伸哉  
小柳 哲朗  
上地 章夫  
森永 勝馬  
瑞木 一博  
杉本 互  
成尾 雅貴  
西村 一守  
西村 尚子  
西澤 和明  
川崎 稔  
前田 伸二  
村田 麗紅  
大串 俊三  
大野 勝  
中溝 大介  
中曾根 健三  
中村 清美  
中島 康子  
長澤 京子  
天ヶ瀬 三津代  
田口 光雄  
土井 敏行  
八坂 信雄  
尾崎 義朗  
副島 正幸(雅雪)  
福田 祐子  
保利 耕輔  
峰 悦男  
堀口 勝郎  
野上 俊樹  
野本 正彦  
有澤 正典  
力久 修  
力武 修  
杠 好秋  
櫻井 愛子  
石黒 秀司

## 学生会員

田代 英大  
荒谷 淑恵

的野 直喜  
田久保 克明  
納江 幸利  
馬場 龍之介  
長澤 京子  
佐々木 佳寿子

## 購読会員

川松 広栄  
柳 浩輔  
鶴田 雅敏

## クーキャオ中学校

山下 雄司  
篠原 隆法  
中村 圭一  
伊豆 哲也  
寶泉 正美  
古賀 由紀子  
阿部 博  
眞崎 綾子  
山田 利明  
井上 弘子

## 賛助寄付会員

岡本 明久  
御厨 初美  
北九州地球市民の会  
(38名分)  
熊本 由美子  
重永 哲郎  
仲山 恵

## 団体賛助寄付会員

(株)北島  
(株)佐賀共栄銀行  
株式会社福岡商店  
(有限)ティグレ  
(株)ミズ

## 書き損じハガキ・古切手

白井 恵一  
井上 祥代  
有田社会福祉協議会  
NHK佐賀ニュース  
岩崎  
山口 スミ子  
石塚 雅子  
佐賀北通信制  
林口 多恵子  
佐賀県男女参画県民協働課  
佐賀銀行  
満岡 信子  
本村 喜代  
吉田 純子

## その他

古賀 民子  
大野  
東洋物産株式会社

## クーキャオ高校

里中 長治  
栗林 正則  
青柳 光美  
内山 治郎  
大塚 寿美雄  
大野 博之  
加藤 由紀子  
西山 峰次  
祓川 清美  
森永 勝馬  
円城寺 久好  
松林 久美子  
前田 綾子

## シショダヤ

松林 久美子  
戸田 玲子

植田 京子  
貝通丸 直子

## ボーゲウ校

田中 俊郎  
寺戸 純子  
戸田 玲子  
西山 峰次  
吉田 純子(スミコ)  
愛野 良治  
亀井 一恵  
江口 はる美  
前田 勝美  
納江 幸利  
福井 丈一郎  
佐藤 さちこ  
松尾 千秋

## ミャンマー教育基金

福島 龍一  
里中 長治  
阿部 博  
田中 進  
井上 弘子  
ひなた村保育園  
貝通丸 直子  
副島 正幸

## カンカウ準中学校建設寄付

福島 龍一  
杠 好秋  
藤木 修  
野田 誠  
里中 長治  
阿部 博  
青柳 光美  
西山 峰次  
田中 進  
藤野 せつこ  
株式会社 ナチュラル  
TPA東京  
副島 正幸

## スリランカ高校生招聘寄付

篠原 隆法  
福島 龍一  
野田 誠  
里中 長治  
阿部 博  
植田 京子  
西山 峰次  
副島 正幸

## 支援金寄付

ひのでや酒店  
天吹酒造  
彩り送るうプロジェクト  
国際NGOサポート募金  
ビートルズナイト2012  
実行委員会6/16フロンティアライブ  
ビートルズナイト2012  
実行委員会8/4ロードライブ  
ビートルズナイト2012  
実行委員会8/18フロンティアライブ

## タイ教育基金

福島 龍一  
眞崎 綾子  
野田 誠  
和中 浩二  
里中 長治  
阿部 博  
植田 京子  
井上 弘子  
貝通丸 直子  
副島 正幸

## ミャンマー寄付

(有)今心工房

## ミャンマータンボジサポーター

佐賀富士ベンディング(株)  
ジャパン福岡ベブシコーラ  
コココーラウエスト  
西山 峰次  
吉賀 豊司  
中村 志津香  
福島 龍一  
富野 ともえ  
副島 正幸  
杠 好秋  
板垣 道代  
藤木 修  
野田 誠  
里中 長治  
阿部 博

## ばーん・たわん

井上 好善  
相川 八重子  
小原 三平  
損保ジャパン佐賀コールセンター  
実藤  
田中 和美  
松下 由芳・善昭  
渡辺 ますえ  
松林 久美子  
河村 嘉

※順不同で掲載させていただいております。  
※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

# 夏の思い出

今年も開催。短い日程でしたが、  
子ども達の成長の足跡です。

## ちびっ子夏夕マテ箱2012 忘れられない夏が来る

\*小学1年生～3年生参加 \*8月9日～11日 富士町大串地区 大串公民館



お楽しみ会で  
司会をしたのが、  
うれしかった。

くらやみでの  
おはなし会がたのしかった。  
自分でもブラックライトを  
つきたい。

こんどは  
テントキャンプが  
したいな。

川はつめたくて  
きもちよかった。

つみきで花火をつくれたい、  
ながーくならべたいあるのが  
たのしかった。

知らない国のことや  
遊びを知ることができて  
よかった。

川遊びは  
とてモスリルがまじり  
たのしかった。

3種類しかないのに  
いろいろなものが作れて  
すごいとおもった。

外国の人と  
過ごすことができ  
たのしかった。

友達と一緒に  
つみきをあるのが  
たのしかった。

## 夏夕マテ箱2012 特別な夏が来る!

\*小学4年生～6年生参加 \*8月21日～24日 金立教育キャンプ場にて



テントの中の  
狭い空間で交流でき、  
楽しかった。

キャンプファイヤーで  
出し物が成功したのが  
うれしかった。

人と人との交流が  
できよかった。

さるかに合戦の劇は  
おもしろかった。

沢登りなともだちと  
ふれあえた。  
また沢登りキャンプを  
したいな。

普段できないことが  
できて楽しかった。

料理が得意だから、  
食事づくりが  
楽しかった。

きつかったけど、  
みんなで少しおつ  
登って行くのが  
楽しかった。

ふるふる(キャンプネー)さんの  
食事のメニューがとても  
おいしかった。



「夢の学校への思い」 ⑭

# 夢の学校にかける思い

理事 岩崎 正



2004年の10月、秋晴れの日に兵庫町のひょうたん島公園で「夢の学校・週末プログラム土ようタマテ箱」が始まりました。土曜日になると、毎回いろんな「おかしら」がやってきました。お米のおかしら、星のおかしら、昆虫のおかしら、アウトドアのおかしらなどなどです。子どもたちは、初めて出会うことばかりで目を輝かせていました。

ある授業に参加したときのことでした。それは、多布施川をカヌーで下って川のことを知る授業でした。ほとんどの子どもがカヌーに乗るのが初めてです。私もそうでした。おかしらは、カヌーに乗ったら「川の流れに任せるように」と言われました。しかし、後ろ向きになったり、ちょっと揺れたりすると身構えて体に力が入ります。するとカヌーは、グラッと揺れひっくり返りそうになります。そこでまた、ググッとこらえると、もっとグラグググとなり。その時おかしらが「楽しんで一力を抜いて」と叫びます。でも、時すでに遅く・・・水中へ。近くに浮いていた子どもたちも、あっちこっちでひっくり返っていました。護岸にぶつかり、岩に乗り上げ、小さな滝に落ち、そのたびに転覆です。途中、上陸しました。そこには、魚のおかしらが待っていました。ちょっと強面のおかしらでしたが、話はとっても面白く、魚のことは何でも知っていました。おかしらの家は、小さな水族館でした。海の魚、川の魚、イソギンチャク、クラゲ、なぜかゾウガメまでいました。またまたみんなは驚き、大喜びです。川下りはあと半分ありました。子どもたちは、転覆を繰り返しては、乗り直し、ゴールしました。泣きながら、笑いながらの小さな小さな大冒険でした。あれから、8年・・・。夢の学校は、ここにあります。いつまでもカヌー乗り続けたいです。



「私の考える教育とは？」 ⑭

# 夢の学校タマテ箱アシスタント

夢の学校タマテ箱アシスタント 松原 早葉子

夢の学校でアシスタントをするようになって、半年が過ぎようとしています。ここには泣くまで喧嘩をする子もいれば、毎日何か生き物を持って帰ってくる子、隙あれば読書をする子もいて、色んな個性の融合を日々感じています。

学生時代に「教育とは、個人の内包する価値の可能性を実現させるものである」と教わりました。しかしその可能性を実現させたいがための、教育を行う側の行き過ぎた干渉は変わらず課題であり続けています。

狂言で有名な野村萬斎も、幼少期から父による厳しい稽古を受けてきたそうです。ただしその内容は“根本的に間違っていること以外は直さない”稽古だったといえます。これは、萬斎その人が持つ個性を潰してしまわないための、彼の父からの教育でありました。そうした稽古を繰り返すうちに、何か“新しいもの”が生まれ、独特の発声など今日の彼に至ったのだと思います。私も子どもたちと関わる中で、その個性と成長を信じることの大切さを改めて感じています。先日、夢学の1年生が学校から帰ってくるなり私のところへやってきて、何か話したように、うずうずしていました。耳を貸すと「ちょうちょ結びできるようになったよ。」と恥ずかしそうに照れながら、こっそり教えてくれました。

毎週木曜日の空手の時間、子どもたちは空手着に着替えると、一斉に道場へかけていきます。しかし1年生の彼にとって蝶々結びはなかなか難しく、空手着の左右を留める紐にいつも苦戦していました。毎週もどかしい思いをしていたのでしょうか。あの後決心し、どこかで何度も練習したのだらうと思います。

もし私が代わりに結んであげていても、もう少し時間が経てば、きっとそのうち自然に結べるようになったことと思います。でも、今の自分にとって難しいことに挑戦し、それを達成できたという経験は必ず将来の糧になると信じています。子どもたちには、できるだけ多くの成功体験を、今自分で味わってほしいと思います。そのため私ができることは何か、どれくらい必要かを常に考えながら、私も一緒に成長していきたいです。

# 流祖大塚博紀先生 生誕120年祭記念 第48回和道流空手道連盟全国大会

平成24年9月22日(土)・23日(日) 東京武道館



古賀道場が加盟する「和道流空手道連盟」の全国大会が開催されました。今回は流祖ご生誕120年祭記念の大会、出場選手も身の引き締まる思いで臨んだ大会でした。今回、古賀道場からは14名がエントリーし、夏休みに一生懸命練習に打ち込んだ成果を発揮する為に強い意気込みで会場に入りました。



## 道場通信

和道流  
古賀道場

### 頑張ったよ!!入賞者紹介



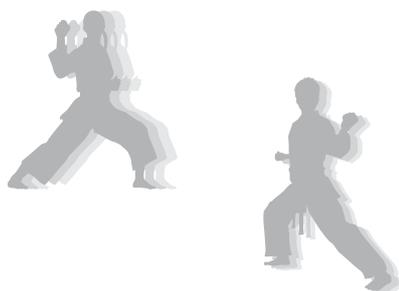
やはり全国大会。とてもレベルの高い試合が繰り広げられる中、古賀道場から3名が入賞する事が出来ました。

光安 貫泰選手	組手試合	小学2年生以下の部	3位入賞
音成 龍二選手	組手試合	小学6年生男子の部	3位入賞
杠 蓮 選手	形 試合	小学6年生男子の部	敢闘賞

今回は残念ながら入賞できなかった選手の中には、後一步という人が何人もいました。改めて古賀道場のレベルの向上を実感する事が出来る有意義な大会となりました。

### OB達も健在?

今年もこの大会の為にOBたちが集まってくれました。遠くは名古屋から駆けつけてくれ、日頃仕事や勉強で忙しく満足な稽古も出来ていない状況でも古賀道場の為に出場してくれる頼もしいOBたちです。結果は残念ながら「・・・」でしたが、大会を大いに盛り上げてくれました。



「英語を使えるようになること」

日本に居ながら英語を使えるようになるのは非常に難しい。それを承知で少しずつ頑張って古賀英語道場の生徒さん達は長い年月がかかる道のりを講師陣と一緒に歩んでもらっているわけだが、その途中で、学校の勉強や受験という障害物にぶち当たる。

僕が考える英語教育の本当の意味とは英語を使えるようになることだ。日本の学校英語教育を完全に否定するわけではないが、今まで学校教育のみで英語が使えるようになった学生は一般的に言って少ないと言えるだろう。日本の英語教育が成功してきたとは言いがたい。

やっと最近グローバルという言葉や観念が具体化されてきたが、それでも英語

を本当に使う仕事につく日本人の確立は低い。つまりは、英語ができなくても仕事はできるし、ある程度成功を日本国内で得ることができると言える。受験というハードルさえパスすればいいのだ。すなわち、英語というものが受験の教科だけとして一般的に使われていると言え。試験にパスさえすれば、沢山覚えた単語なども全部忘れてしまったと言う学生の声を何となく聞いたことがあるのではなからうか。実際に自分もそうだったという人も多いはずだ。

英語は言葉なのだから、「話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと」が対等に必要とされるにも関わらず、日本の学校英語教育では話すことに重みは置かれていない。その大きな理由の一つは英会話を一クラス約四十人で教えるのはほぼ不可能だからだと考えられ

る。それでも、英語の授業はやらないよりやった方が良いのだから、必然的に書くことや読むことを主に取り組むようになったのだろう。せめてもの救いは「聞くこと」が少しでもあることだ。

「英語を勉強すること」  
「学校や受験のテストのため」という方程式になっていることが多いのであれば

「英語を勉強すること」から脱却すれば良いのだ。「英語を使って何かをやる」に変えていくことができれば、英語は自然と身に付いてくる。英語はコミュニケーションの道具なのだから、使うということを実践していかない限りは、使えるようになるわけがない。

「受験のための英語ではダメだ！」と僕の中学校時代からすでに言われていたのだから、それから二十年以上が絶っている。果たし

てその時代の流れの中で、日本の学校英語教育は本当の意味で進化したのだろうか。A・L・Tの導入や様々な英語教材の変化が良くしたと言えるだろうか。民間の英語教室に通わず英語が使えるようになった生徒を排出しただろうか。結果をだしただろうか。そろそろ日本が国をあげて英語教育の本質である「英語を使えるようになること」を担う時代がきても良いのではなからうか。

日本の政府はグローバル人材を育成すべきだし、育成したいと考えているはずだ。そうであれば、まずは英語を使えるようになる英語教育に変えていくことを革命的にやらなくてはならないと思う。

日本の英語教育の「本気」に期待する！

# 英語的思考の スス× vol.10

古賀英語道場代表の青柳達也による連載コラムです。  
英語教育とグローバル人材教育というテーマについて、  
色々な視点から世の中を見つめながらコメントしていきます。

# 10月～12月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場  
★は夢の学校の行事です

## 地球市民ネットワーク

### ●タイに図書館をつくる旅

～タイの子どもたちの笑顔に出会いに行きませんか?～

12月14日(金)～20日(木)

訪問先: タイ王国 ウドンタニ県及びカラシン県

内容: 絵本を届ける、里子との交流、ホームステイ、現地NGOの活動に参加

参加費: 65,000円(航空券代及び海外保険代含まない) 申込締め切り: 11月9日(金)

### ●会員の集い

12月9日(日)

(別紙参照)

### ♥国民体育大会 空手道競技

10月6日(金)～8日(日)

岐阜県多治見市

吉村 直記 出場



### ♥第25回和道流空手道福岡大会

11月23日(金・祝)

福岡武道館

古賀道場の幼児から大人の選手たちが出場予定

### ★三遊亭歌之介独演会

10月5日(金)

会場: 佐賀県立美術館ホール

主催: 夢の学校&フレンズ

### ★教育シリーズ⑧

「世界に通用する子どもを育てるために」

～佐賀から真の国際人を～

12月1日(土) 講師: 中嶋嶺雄(公立大学法人国際教養大学学長)

会場: 佐賀県駅北会館



### ★内閣府

地域における男女共同参画連携支援事業

11月17日(土)～18日(日) 「防災環境教育キャンプ」開催

♥古賀英語道場 第33回英語劇祭

12月23日(日) エスプラッツホール



東日本大震災支援事業進行中です! 「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」  
ホームページで活動をご確認下さい! <http://www.genkiokurou.jp/>

スタッフの  
ひとこと

## 夏の思い出

暑い夏も終わりちょっとびりセンナ季節がやってきました。若かりしころの甘酸っぱい夏の思い出を聞かせてください。

### 地球市民の会

- 大野 博之** 20代後半商社マン時代の私は夜のお遊びにも飽き、夏はただひたすらスキューバダイビングでした。東京時代は南伊豆、大阪時代は串本、時に沖縄。ダイビングはビーチエントリーが基本でしたが、深いところやグッドスポットはを潜るには船はからのエントリーが必要。しかし、酔いのひどい私は嘔吐しながら(魚の餌になり寄ってくる)苦しみながら美しい風景を見に潜っていました。こみ上げる胃液の酸っぱい思い出。甘酸っぱくなく、二方酸っぱい夏の思い出でした。
- 江口 恵美** むかしむかしのその昔、10代の私ははずーと大好きだったバスケット部の同級生が書いた習字の書き損じを拾って、宝物にしていました。ハハハ…ある意味こわいですか?
- 岩永 清邦** 大学時代、野球の練習を終えてBBQをしていた時、突然の大雨。BBQも中止になり、がっかりと…せずにそのままみんなでバンザーでグラウンドへ。真っ暗の中、水風船投げあてゲーム。しかし、翌日残骸でグラウンドが大変なことになって先生、先輩にとんでもなく怒られた…しかし、楽しかった10代最後の苦い? 思い出。
- 藤瀬 伸恵** 中学生の頃、陸上部で200mと400mの選手でした。学校での練習は野球部とサッカー部が練習しているグラウンドの周りをつかって走ります。暑い夏、険しい顔をして彼等の前を走るのがなんだか恥ずかしく、でも気にしていないふりを走っていたのを思い出します。
- 戸田 玲子** 高校2年生の夏。福岡で開かれた世界水泳。ボランティアスタッフとして、プールサイドの水かきをしながら…華麗な飛び込み選手の姿にドキドキしていました☆「あぁりたい」と飛び込みに恋した私は、友人に「女を捨ててる」と言われるほど筋トレ生活(笑) そんなこんなで、甘酸っぱい経験をする時期を逃しました>>>
- 佃 麻実** 小学校のキャンプでの肝試し大会での事。好きな男の子と一緒にグループになり、「恐かったら助けてもらおう♪」と、ワクワク・ドキドキな私でした。でも、いざ始まったら真っ先に私を置いて、一目散に逃げ出した彼。「男なんて泣泣」と、幼心に思った瞬間でした～

### 古賀英語道場・空手道場

- 古賀 大之** 少年時代の夏、僕も例に漏れず毎日外で汗をダラダラ流して遊びほうけておりました。汗をダラダラかきながら食べる冷たい「カキ氷」はもう最高! そのカキ氷に大粒の汗がポタリ、ポタリ…、そう!! 甘いカキ氷が汗でしょっぱく! 夏の甘しょっぱい体験談でした(ワハハハ…)
- 古賀恵美子** 高校2年生の時、学校帰りに好きだった男の子の自転車の後に乗せてもらった時は胸がキュンキュンした事を思い出しました。きゃ〜〜あま〜あま〜!!
- 古賀 洋子** 平成20年3月、一度に3人のkoibitoとの別れがありました。今でも桜のつぼみがふくらむ季節になると、空を見上げては「元気かなあ?」と…「来年は、同い年になってしまいますよー!」「子離れの心の寂しさも一人で頑張って耐えますよー!」「家族のこと、しっかり守ってくださいねー!」私にとってこの3人のkoibitoプラス姫様と一緒に過ごした時間が一番幸せな時間でしたよー!
- 青柳 達也** それは若い頃は色々〜と一夏の??などありましたが、自分の中だけの大切なメモリーとしてとっておきます。演劇の脚本のネタになるほどのものでもないしな…。

### 夢の学校をつくる会

- 吉村 薫** 暑い夏。中学時代、陸上競技の部活で食べた「レモンののはちみつ漬け」。初めての味に感動。甘酸っぱかったなあ(恋愛話でなく失礼)
- 高柳 哲也** 秋になると思い出す「トマトの味」真夏の暑い小学校帰り、当時は自販機もなく途中の畑からトマトをいただいてのどをうるおさせたなあ〜(時効になる年齢になりました…)
- 山口 則子** 26歳の12月、オーストラリアは夏真っ盛り。語学学校のプログラムが終了し、みんなでビーチパーティーをしました。最後にイケメンブラジル人のクリスチアーノが「また会おう」と言ってハグしてくれて、キューンとなった想いがあります。元気かなあ…
- 松原早葉子** 中学校の頃、好きだった男の子と夏祭りへ行ったりんごあめを食べました。甘酸っぱい夏の思い出です。

■北海道地球市民の会  
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長/阿部功 事務局/新保知博  
TEL・FAX: 0133-74-1296

■地球市民の会ふくしま  
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1  
榊石黒  
会長/事務局担当 石黒秀司  
TEL: 024-959-6426  
FAX: 024-959-6577

■地球市民の会東京  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
会長/有澤正典 事務局/佐藤敏行  
TEL: 03-3662-0331  
FAX: 03-3662-0400  
E-Mail: arisawa@nun.co.jp

■地球市民ACTかながわ  
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203  
会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行  
TEL・FAX: 045-622-9661  
E-Mail: port@tpak.org

■地球市民の会ぎふ  
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1  
竹花園内  
会長/森幹治 事務局担当/平井八重子  
TEL: 058-391-5415  
FAX: 058-391-8600

■地球市民みえの会  
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバレスト  
津市市民活動センター内  
会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信  
TEL: 059-226-5700  
FAX: 059-224-8911  
E-Mail: miemiemiemi21@hotmail.com

■地球市民の会京都  
〒605-0873 京都市東山区下島町484  
会長/宮川尚子 事務局担当/西田一貴

■神戸ノ戸有頂天倶楽部  
〒657-0045 神戸市灘区下河原通り3丁目4-3  
会長/松元隆司 事務局担当/大西陽治

■愛媛地球市民の会  
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町  
入野859-1  
会長/森高康行 事務局担当/丹生谷宗久

■北九州地球市民の会  
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F  
会長/河野一郎 事務局担当/大山研児  
TEL: 093-521-8181  
FAX: 093-551-2296

■地球市民の会福岡  
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
榊屋屋内  
会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿  
TEL: 092-801-5888  
FAX: 092-801-5789

■(特活)コミネット協会  
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31  
会長/池永憲貞 事務局担当/富田、田中  
TEL・FAX: 096-387-7139

■古賀英語・空手道場  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-25-2295  
FAX: 0952-26-4922

■夢の学校をつくる会  
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10  
TEL: 0952-22-6262  
FAX: 0952-26-4922

### ネットワーク・テラ 秋号 VOL.148

発行/  
認定特定非営利活動法人 地球市民の会  
〒840-0822  
佐賀県佐賀市高木町3-10  
ホームページ: <http://tpa.nk.inet>  
E-mail: office@tpa.nk.inet  
TEL: 0952-24-3334  
FAX: 0952-26-4922  
発行日/2012年10月22日  
発行人/佐藤昭二  
編集人/地球市民の会 事務局  
印刷/榊サガブリんテイング